

総合戦略骨子案

基本目標 1：基盤産業の安定化・新たな産業の創出

■現状と課題

- ・本市は、東京都内でも有数の産業都市としての側面を有しています。就業者数に着目すると、製造業、情報通信業、卸売・小売業、建設業、医療・福祉などに従事する方が多くなっています。【人口分析結果より】
- ・市内に全国有数の企業がいくつも立地していることは本市の強みでもありますが、一つの企業の業績や工場撤退等の動向に大きく影響を受けるリスクを有しています。【人口分析結果より】
- ・事業者アンケートでは、62.9%の企業が「今後成長が期待できる」との回答がある一方で、68.6%の企業が経営課題として「人員・人材の確保」を挙げています。【アンケート結果より】
- ・一方で、市民アンケートでは、43.4%が「子育てや教育にお金がかかりすぎる」ことを子どもを増やす際の問題として挙げています。また、子育てしながらの理想の働き方として、7.7%が「家事・育児に専念する」、30.2%が「可能な範囲で短時間就労する」、18.6%が「フルタイムで就労する」との回答が得られています。【アンケート結果より】

■目標

基盤産業の市内で事業継続を支援するとともに、新たな産業を育成し、多様性のある産業構造をめざします。また、子育てや介護などを行いながら働けるなど、さまざまな就労ニーズに応える魅力的な就労環境をつくり、雇用と労働力の確保の両立をめざします。

■取組方針

- 基盤産業の経営安定化
- 新たな産業創出による産業構造の多様化

数値目標	現状値	目標値 (H31)	備考
〇〇〇〇	〇〇〇〇人	〇〇〇〇人	総合計画を引用した場合、施策番号を記載予定
〇〇〇〇	〇〇〇〇円	〇〇〇〇円	

■講ずべき施策に関する基本方向

(1) 基盤産業の経営安定化

-
-
-

(2) 新たな産業創出による産業構造の多様化

-
-
-

-
-
-

基本目標 2：市に愛着を持つ人の定住促進

■現状と課題

- 全国で人口減少が進む中、本市においては現在も人口が増加し続けています。本市の人口増加は、全国からの転入超過で支えられていますが、近年は、社会増減数、自然増減数が共に減少傾向にあり、その要因は、23区への転出超過、出生数の減少及び死亡者数の増加が挙げられます。この傾向が続けば、想定より早く人口が減少する可能性があります。【人口分析結果より】
- 市民アンケートでは、住み替え希望について、63.6%が「住み替え希望はない・市内で住み替えたい」と回答しており、本市で暮らし続けたい方が過半数であることが明らかになりました。一方で、25.0%が「市内外を問わず住み替えたい」、11.0%が「市外で住み替えたい」との回答しており、市外での住み替え希望先として、16.2%が「世田谷区」、37.1%が「その他23区」と回答しています。【アンケート結果より】
- 市内の就業者10.6万人のうち、5.8万人は市外から通勤されています。近年、ワークライフバランスの観点、企業の危機管理の観点などから職住近接が求められており、市外からの通勤者に市内居住を促進することが考えられます。【人口分析結果より】

■目標

市内で生まれ育った子どもたちが本市で暮らし・子どもを産み育てたいと思う環境整備や、本市への通勤者など市に関わりのある人に定住を促したりすることにより、将来の人口構造を適正化することをめざします。

■取組方針

- ふるさと意識の醸成などによる定住促進
- 市内企業の従業者の市内居住の促進

数値目標	現状値	目標値 (H31)	備考
〇〇〇〇	〇〇%	〇〇%	
〇〇〇〇	〇〇%	〇〇%	

■講ずべき施策に関する基本方向

(1) ふるさと意識の醸成などによる定住促進

-
-
-

(2) 市内企業の従業員の市内居住の促進

-
-
-

-
-
-

基本目標 3：若い世代の出産・子育ての希望をかなえる（出生数の増加）

■現状と課題

- ・本市は、近年においても人口が増加し続けており、15歳～49歳の女性も増加しています。一方で、将来を担う子どもの出生数は、横ばいから減少傾向にあります。【人口分析結果より】
- ・市民アンケートでは、理想の子どもの人数は平均 2.2 人ですが、現実的に持てそうな人数は 1.6 人との回答が得られており、市民の希望をかなえ、理想の子どもを産み・育てられる環境づくりが求められています。【アンケート結果より】
- ・また、理想と現実を持てそうな子どもの数に差がある方の 43.4%が「子育てや教育にお金がかかりすぎる」ことを子どもを増やす際の問題として挙げ、子育て支援に関する改善すべき点として 25.0%が「保育所等の充実」、17.7%が「市の子育てに関わる経済的支援の充実」を挙げています。【アンケート結果より】

■目標

若い世代が安心して子どもを産み、子育てを楽しめるまちを実現し、若い世代の出産・子育てに関する希望をかなえ、出生率を高めるとともに、出生数の増加を目指します。

■取組方針

- 若い世代が出産や子育てを楽しめる環境づくり
- 知・徳・体のバランスの取れた教育の充実

数値目標	現状値	目標値（H31）	備考
〇〇〇〇	〇〇%	〇〇%	
〇〇〇〇	〇〇ポイント	〇〇ポイント	

■講ずべき施策に関する基本方向

(1) 若い世代が出産や子育てを楽しめるまち

A vertical blue line on the left side of the diagram branches into three horizontal blue lines, each leading to an empty rectangular box. The boxes are stacked vertically and are intended for handwritten notes.

(2) 知・徳・体のバランスの取れた教育が受けられるまち

A vertical blue line on the left side of the diagram branches into two horizontal blue lines, each leading to an empty rectangular box. The boxes are stacked vertically and are intended for handwritten notes.

基本目標 4：地域や家族とつながりある安心な暮らしの実現

■現状と課題

- 全国と同様に、本市も高齢化が毎年進行しています。国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計によると、老年人口一人を支える生産年齢の人口数は、2010年（H22）時点で3.75人、2040年（H52）年時点で1.85人、2060年（H72）時点で1.53人と減少を続け、高齢化の進行により様々な負担が増加することが見込まれます。【人口分析結果より】
- 世帯の人員構成に着目すると、近年、市内の単独世帯（1人）は増加傾向にあり、世帯全体の40%を占め、2人世帯を合わせると65%に達しています。単独世帯は、20代の若者だけではなく、中高年男性や高齢者（特に女性）も多くなっています。将来的には、男性よりも寿命の長い女性の単独世帯が増加すると考えられます。【人口分析結果より】
- 近年は、市民の高齢化だけではなく、公共施設や住宅などのストックの老朽化も進んできています。本市の保有する公共施設のうち築30年以上の建物は42%となっており、今後この割合は急速に増加していくことが見込まれています。これらストックの老朽化対策が求められています。【第1次府中市公共施設マネジメント推進プランを参考】

■目標

増加する高齢者の医療や介護ニーズへの対応し、社会と関わりながら安心して暮らせる環境をめざします。また、公共施設マネジメント、市内不動産ストックの有効活用などを推進し、時代に応じた安心して暮らせるまちをめざします。

■取組方針

- 高齢者等が安心して暮らせる地域づくり
- 公共施設マネジメント等の推進によるストックの有効活用

数値目標	現状値	目標値（H31）	備考
〇〇〇〇	〇〇歳	〇〇歳	
〇〇〇〇	〇〇m ² /人	〇〇m ² /人	

■講ずべき施策に関する基本方向

(1) 高齢者等が安心して暮らせる地域づくり

-
-
-

(2) 公共施設マネジメント等の推進によるストックの有効活用

-
-
-

-
-
-